

幼い命の誕生に乾杯

今年の初め、ウグイスの鳴き声で目を覚ましました。親子と思われる何羽かが、昨年と同じように庭先の椿の木に止まって鳴いています。今年もまだケキョ、ケキョとしか鳴けない幼い鳥の鳴き声が愛らしい。親鳥は六月の今も、ホーホーホケキョときれいな声を聞かせてくれます。

我が家にも昨年、初孫の女の子が生まれ、茉桜(まお)と命名しました。四月十六日が誕生日。六月で一歳と二ヶ月になりました。ちょうどウグイスのケキョ、ケキョと同じようなよちよち歩きの時期。最近ようやく母親が話しかける言葉に反応するようになりました、分かっているのかどうかを確かめる術(すべ)もありますが、「おねんねしようね」と語りかけられると、布団に寝転ぶしぐさで答えてくれます。体で表現することを覚えたのでしょうか。母親の言葉やしぐさ、身の回りの出来事の一つひとつが、孫にとって人生の旅立ちのときに得たデータになっていることと思います。

我が家の底先には毎年、五月のゴールデンウィーク中にもう一組のお客様がやって来ます。南から日本に向かう風(季節風)に乗って訪れるツバメ。今年はいつもの年より早く、ゴールデンウィーク前に我が家に到着しました。歓迎の気持ちに変わりはありませんが、毎年、工場の蛍光灯の上や周囲の灯火の上などに巣づくりをするのに困り、今年は天井に小さな板を取り付け、手作りの巣箱を用意しました。すると、私の心が伝わったのか、真っ先にこの巣箱にとまりました。番(つがい)らしい二羽が会話さながらの鳴き声でさえずり合うこと三日間。ようやく四日目に『話し合い』が成立したのか、巣づくりが始まりました。今では五羽の燕が元気に育っています。

最近では親ツバメも、子どもたちが幼いときほど頻りに餌を与えなくなりました。子どもたちに親の運んでくる餌に頼らず、自分の力で餌を取るようにと教える親心の為せる業(わざ)なのかも知れません。子ツバメたちもこうして、自然の掟を学んでいくのでしょうか。

私の家は、茉桜(まお)の成長、ウグイスの鳴き声、ツバメの一家とにぎやかな初夏を迎えましたが、我が町相模湖も山あり、川あり、湖ありの風光明媚な土地。特に、新緑の季節は四季の中で一番良い季節です。物みな緑に染まる中で、日毎に知恵をつけて成長してゆく孫を楽しみに、また、新しい命の誕生を喜び、我々も若いうちは若い楽しみ方、年を取れば年なりの楽しみがあることを感じながらの今日この頃です。

〒252-0176

神奈川県相模原市緑区寸沢嵐1755

押田 成夫